

私達の漁港清掃活動
—きれいな漁港で漁業の発展を図る—

那珂湊漁業協同組合女性部 内藤 美年子

1. 地域の概要

私たちの所属する那珂湊漁業協同組合は、茨城県の中央部那珂川の河口左岸に漁港を有している。所在地であるひたちなか市は人口151千人で、高速道路のアクセスも良く、県内外から多くの観光客が訪れている。また、当漁港には「おさかなセンター（量販店）」が隣接しているため、多くの買い物客で賑わっている。

一方、常陸那珂港の建設も進んでおり、物流の拠点としても発展が期待される。

2. 漁業の概要

那珂湊漁業協同組合は正組合員62名、准組合員86名の148名で構成されている。船曳網、刺網、底びき網、釣、採鮑等の漁業が営まれ、また、県内唯一のカツオの水揚げ港である。

平成14年の水揚げは数量で約2,047t、金額で約720百万円であった。

3. グループの組織と運営

那珂湊漁協は、平磯・那珂湊・那珂湊第一の3漁協が合併し、平成4年9月に誕生した。

漁協は合併したが、女性部は昭和32年に設立された旧平磯漁協婦人部を継続する形で運営している。現在の部員数は27名、部長1名、副部長1名、会計2名、その他役員5名で構成されている。

4. 実践活動課題選定の動機

ここで、那珂湊漁港に隣接する地域の観光客の推移から、レジャー客の動向をみることにする。

表1は、阿字ヶ浦・平磯・ひたち海浜公園を訪れた観光客の動向を示したものである。

年間200～300万人の観光客が訪れており、日帰りが約60～80%で、特に最近では日帰り客の割合が高く、その一方で県外客が減少している。また、自家用車を利用する人が極めて多いことがわかる。

那珂湊漁港を訪れる「観光客（おもに釣り人）」についての統計はないが、土曜・日曜日は家族連れも多く、岸壁が占拠されている状況であり、平均200人としても年間では延べ2万人ほどに達するものと思われる。

また、当漁港は「おさかなセンター」が隣接しているため、年間約100万人もの買い物客が訪れ、非常に賑わっていることも大きな特徴である。

表1 観光レクリエーション入り込み状況 単位：万人

平成 年	合計	日帰り・宿泊別		居住地別		利用交通機関別		
		日帰	宿泊	県外客	県内容	交通機関	観光バス	自動車他
3	225	133	92	119	106	10	2	213
4	303	215	88	156	147	33	13	257
5	176	114	62	80	96	21	3	152
6	305	250	55	107	198	15	27	263
7	318	238	80	171	147	63	3	252
8	293	231	62	176	117	58	20	215
9	249	214	35	177	72	49	2	198
10	196	159	37	90	106	78	2	116
11	233	214	19	88	145	-	7	226
12	213	198	15	68	145	25	7	181
13	178	172	6	41	137	19	13	146

ひたちなか市経済課調べ

開かれた漁港として大勢の人が訪れることは結構なことであるが、一方、ゴミが岸壁などに大量に捨てられ、なかには自動車まで放置されるような状況になってきた。

漁港内が汚れるばかりでなく、漁業活動にも支障を来すようになってきている(表2)。

表2 漁港を訪れる人が捨てていくゴミや問題など

放置されるゴミ	その他、問題点
釣り糸 釣りエサ お弁当の空箱 ジュースの空き缶 酒缶 釣り上げた魚 雑誌・新聞 タバコ	①岸壁でバーベキューを行い、食べながら釣りをしている。 ②岸壁に無秩序に駐車し、氷の積み込みや水揚げの支障になる。 ③夜釣りをして、酒缶を捨てる(ガラスの破片が散乱)。 ④船に置いてあるタモ網やタル、望遠鏡などが盗まれる。

最近は釣りブームであるが、マナーが悪いことには閉口している。釣リエサは、捨てられて腐っていて、大変不衛生である。釣った魚もボラなどは食べないので、岸壁にそのまま放置され腐っている。お弁当の食べ残しやジュースの空き缶などは放置されている。

また、夜釣りの時、酒（ワンカップ）缶を捨てるため、ガラスが割れて危険な状態になっている。タバコなどは車のシガレットケースからまとめて捨てていたり、勝手に船に乗ったりと数え上げればきりが無い。

一方、自動車を岸壁に無秩序に駐車するため、氷の積み込みの邪魔になったり、魚の水揚げができないなどのトラブルも発生している。挙げ句の果てには、自動車まで漁港内に放置する始末で、放火された事件も発生している。

5. 実践活動状況及び成果

そこで、毎月第2日曜日を清掃の日と決めて、女性部全員で漁港の清掃を実施することとした。ゴミはお弁当の食べ残しや空き缶、釣り針など不衛生なばかりでなく危険なため、船で使う耐油性の丈夫なゴム手袋を着用して拾い集めている（図1）。

私たちは早朝7時に集合してゴミを集める。この時間には既に多くの釣り客などが岸壁を占拠している状態となっている。

また、船の出入り口でも平気で釣りをしている。船の出入りの障害となるので、注意するが、文句を言い出す人もいる。

ゴミは岸壁や漁港周辺の至る所に捨てられている（図2）。ゴミ捨て禁止看板の設置されている所にも捨てられていてあきれられるばかりである。ゴミの大半はお弁当や空き缶、釣り針などで1回の収集量は1トントラック2台分、1年間ではトラック30台分にもなる（表3）。

表3 女性部が1年間に収集したゴミ（平成14年）

収集したゴミ	収集量	備考
可燃物	1トントラック10台	特別のイベントの時には、関係者が整理する。
不燃物	15	
タイヤ	5	
合計	30台	

6. 波及効果

当漁港を訪れる人の中には、相変わらずゴミを平気で捨てていく者もみられるが、最近では持ち帰る人も多くなり、地道な活動の成果が現れていると思う。

また、ゴミの大量に捨てられている場所に、花を植えたプランターを置いたところ、

ゴミが激減し私達も驚いている（図3）。これが漁港の清掃ばかりでなく「花いっぱい運動」につながれば、ゴミのないきれいな漁港になり、ひいては住民の憩いの場にもなっていくものと思う。

ところで、漁港内の清掃については私達女性部が定期的に行うほか、年末には組合総出で男性も参加して実施してきた。一方、地元でも理解を示し年1回ではあるが、自治会などが私達と一緒に漁港清掃活動を始めた。この活動は、水産業や地域に対する理解の表れではないかと考えている。お陰様で漁港内も随分きれいになり、このような活動がさらに拡大することを願っている（図4）。

7. 今後の課題

近年漁港を訪れる人が急激に増加し、無秩序に岸壁に駐車したり、航路で釣りをしたりと漁港本来の意味がわからない人が多すぎると思う。余暇時間を有効に使うことは大変結構なことではあるが、ルールをわきまえて欲しいと思う。

岸壁を駐車場と考えているような者も依然として多いが、漁業活動の支障にもなるので、引き続きマナーの徹底など地道に啓蒙活動を続けていくこととしている。

漁港の清掃は、女性部中心で実施しているが、当漁港は広すぎてなかなか女性部だけの手には負えないのが実情である。今後は、市や自治会との連携を深め組織的な活動を展開していきたいと考えている。

漁港は漁業生産の基盤であるから、きれいに保つことは、漁業を活性化することにもつながると思う。また、漁港を地域の憩いの場として育てるための環境づくりも推進していきたいと考えている。

漁港管理会には女性部代表が委員として参加しているので、女性部の声が反映され、より安全で使いやすい漁港になるよう発言していこうと考えている。



図1 清掃の様子



図2 捨てられているゴミ



図3 ゴミが激減



図4 自治会と女性部合同の漁港清掃